

課 題 梅の収穫後防除による病害対策について

担 当 者 内藤 継吾

目 的 本市のウメ栽培において問題となっているかいよう病や黒斑病は、感染した新梢の病斑を出発点として病原菌が雨滴により果実まで到達、侵入したあと、収穫直前に果実で発症する。このため、越冬病害菌を減らすことで病害を軽減することを目的として、収穫後から翌年硬核期の銅剤散布による防除効果を調査する。

供 試 品 種 紅映

試験区構成 銅剤散布：11月 Zボルドー（+クレフノン水和剤）  
4月上旬 コサイド3000 散布（硬核期まで）

1区 基幹防除+銅剤散布

2区 基幹防除のみ

供 試 資 材 Zボルドー  
コサイド3000  
クレフノン水和剤（添加剤）

区制及び株数 1区制 1株

#### 結果及び考察

令和3年度における使用農薬を表1に示した。令和3年度収穫分については、銅剤散布は実施していない。

令和3年の収穫物の結果を表1に示した。収穫物のうち、傷のない収穫物は全体の25%、傷や斑点が軽度のものが43%と一番多く、重度のものが32%と次いで多かった。

収穫後の秋季～早春における銅剤散布の効果については、引き続き令和4年度にて試験調査を進めていく。

表1 使用農薬実績

散布日	農薬名
R3-4/12	ストロビーDF + ダントツ水溶剤
4/20	マイコシールド
4/23	スコア顆粒水溶剤 + アプロードフロアブル
5/3	ストロビーDF + アクタラ
5/26	スコア顆粒水溶剤 + ダントツ水溶剤
(令和3年収穫後)	
12/10	Zボルドー + クレフノン水和剤
R4-3/28	コサイド3000

表 2 収穫物調査

	項目		数値	割合
収 穫 量	収穫日		6/16	-
	総収量		37.9kg	-
	内 訳	傷なし	9.5kg	25%
		軽度	16.4kg	43%
		重度	12.0kg	32%
生理落果		4.7kg	-	
果 実 平 均	1果重		27.9g	-
	大 き さ	たて	34mm	-
		よこ	32mm	-

\* 傷なし：傷なし～1mm未満の斑点が1,2個

軽度：2～3mmの斑点が数個

重度：斑点多数、大きい、亀裂